

遠隔授業によるドイツ語(初級) I・II



信州大学全学教育機構
松岡幸司
maulwurf@shinshu-u.ac.jp

0. 開講にあたって

引き受けたはいいものの、シラバスを書く際に：

⇒ **引き受けなければよかった...** (後悔...)

- ・授業のイメージが湧かない
→ 目の前にいない学生にどう対応するか...
→ 授業のリアル感をどう出せばよいのか...
- ・授業の手法が思い浮かばない
→ 発音指導はどうすればいいのか...
- ・各学生の理解度をどう確かめるのか...
→ 画面上の学生の表情を読み取れるのか...

0. 開講にあたって

それでも：

- ・一人でも多くの学生にチャンスを！
→ 英語以外の外国語に触れる機会の提供
→ 外国語による異文化感を体験
- ・学生と一緒に成長したい
→ やる気を感じて応えたい
- ・教員として挑戦したい
→ もっと新しい「何か」を求めて

1. 授業概要

☆ 冊子・ビデオシラバスによる受講学生募集

↓

☆ クラスサイズ

前期 (I) : 5会場で36名

後期 (II) : 4会場で20名

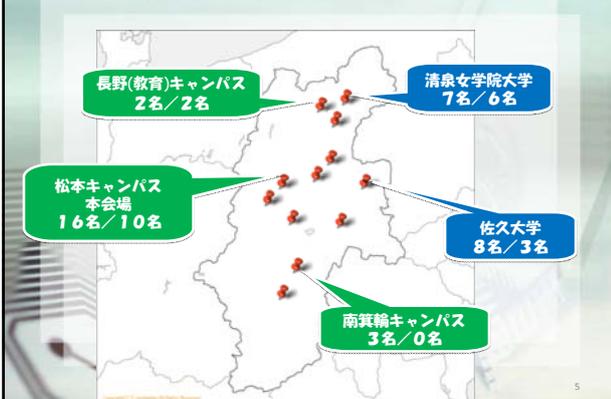
☆ 学生

- 専攻・学年はばらばら

☆ 教科書

- 近藤/小林/新倉/松尾 : Dialog ベーシック版<新版> (都文堂)

受講学生分布 (人数：前期/後期)



1. 授業概要：サイクル(黒字：教員/青字：学生)

月曜日5限：授業

授業終了直後に授業内容をeChes上にアップ

eChesにアクセスし、宿題・確認課題をチェック

火曜日12:00までに上記確認課題をオンライン提出(出席確認を兼ねる)

欠席していた場合は講義ビデオで内容確認

金曜日昼頃までに：次回の授業プリントをeChes上にアップ

授業までにプリントをダウンロードし、プリントアウトして授業に備える

2. 授業実施における問題点

開始前に想定していた問題点

- ・遠隔地とのコミュニケーションが上手くいくか
- ・遠隔地学生の理解度を把握できるか
- ・発音指導ができるか
- ・気軽に質問ができるか

授業を開始してから発生した問題点

- ・発音練習時の時差
→発音のチェックができない
- ・遠隔地学生の様子(表情)がわからない



2. 授業実施における問題点：解決法

遠隔地とのコミュニケーションが上手くいくか
気軽に質問ができるか

- 気さくに話しかけ、リアル感を持たせることはでき、質問も少しずつ増えていった
- ・遠隔地学生の理解度を把握できるか
→その場ではそこそこできたように思えるが...
- 課題・宿題のチェックをすると...よろしくない
- ・発音指導ができるか
→伝わってはいるようだが、確認ができない

2. 授業実施における問題点：解決法

- ・発音練習時の時差
→発音のチェックができない
→やはり難しい...
- ・遠隔地学生の様子(表情)がわからない
→発言してくれるまでわからない

まとめると：

- 学生のレスポンスがうまく受けられない
⇒解決法は・・・

2. 問題点の解決に向けて

理解の深化

→カメラ・画面の使い方を工夫

- ・授業中の必要に応じてホワイトボードに重ね書きを行い、それを別画面に映す



→指示性を高めることで、焦点が明確化

2. 問題点の解決に向けて

「リアル対面」による補足

→巡回補習の実施

- ・授業/教師に対する現実感覚の発生
←「お互いに」テレビの向こうの人ではない(笑)
- ・各学生の理解度の把握
→それ以後の授業に活かす
- ・発音指導
→口の形、音を生で聞き、反応し、指導する

しかし

⇒「遠隔授業」では**反則技**

3. 問題点解決法（巡回補習）の成果

巡回補習の実施

前期は5,6,7月、後期は11,12,1月に一回ずつ
車での移動は疲れましたが...

- ・各学生の個別認識ができた
- ・各学生の発音指導ができた
- ・各学生の理解の度合いを、その都度確認できた
⇒それ以後の授業に活用・反映！
- ・学生の表情・反応が良くなってきた
- ・実際に会った時のイメージで対応できた

4. その他の成果と問題点

成果

- ・eChesの併用で、学生は強制的にPCの使用に慣れる
- ・教師としての能力の向上、対応の幅が広がる

問題点

- ・巡回補習の必要性→来年度への工夫
- ・画面上で学生と面と向かえない(機材の問題↓)



5. おわりに

☆生の授業にはかなわない...? (^^)

→ 双方向のやり方次第では、理解度・満足度は上がる

☆カリキュラム外の授業を受講できる
授業評価アンケートでも多くの学生が指摘！

→ ドイツ語に触れる機会を提供

← 継続して自習していけるような能力を！

☆来年度は「中級(読解)」を開講する

→ 学生・教師の可能性を拓けていきたい